

第2号議案 2020年度（令和2年度）事業報告(案)承認の件

1. 法人活動報告

1) 全体報告

2020（令和2）年度は、役員改選の年で大竹浩司会長体制が5期目に入り、理事数が定員50名に満たすことができないままです。世界的に大流行した新型コロナウイルス感染拡大で政府による2回の緊急事態宣言の影響があって、通常総会が延期、三大行事（大阪ろうあ者スポーツ大会、全ろうあ者文化祭、みみの日記念大会）が中止、諸行事、会議などが延期、中止になりました。本来の活動・事業が制限され、新型コロナウイルスに振り回された年度でした。

コロナ禍の中で、6月は1977（昭和52）年にオープンして以来44年間、大阪のろうあ者の拠点であった大阪府谷町福祉センターは、6月、森ノ宮に開所した大阪府立福祉情報コミュニケーションセンターへ移転しました。また、会員、手話関係者らが募金など活動、大阪ろうあ会館から寄付などで、4月になかまの里から数えて5番目の聴覚障害者施設となる「泉州聴覚障害者センターなんなん」が開所することができました。

全国的な取り組みとして、全日本ろうあ連盟創立70周年記念として制作した映画「咲む」上映会が8月から始まりました。大阪としては、10月から7ヶ所で上映会を開催し、合計1152名も観賞し、感動したなど感想をもらいました。（咲む上映活動は2023年3月まで）

他に、2018年から取り組み始めた旧優生保護法による聴覚障害者への強制不妊手術の実態調査および支援で、全国各地で行われている旧優生保護法による強制不手術の国家賠償請求訴訟裁判は、大阪では11月30日、野村夫婦（仮名）が提訴内容に対して判決を下し、憲法違反と認めたものの除斥期間20年を適用し請求を棄却されました。その判決に対しての緊急声明を12月11日に上げ、ろうあ大阪に掲載、ホームページに掲載しました。ひとりでも多くこの問題を知ることが出来たでしょう。

①新型コロナウイルス感染拡大に関する取り組み

- ・大阪府へ大阪府知事会見における聴覚障害者への情報を保障する要望を4月7日に提出しました。その後、知事会見に手話通訳者をつけるようになりました。
- ・新型コロナウイルス感染の疑いがある場合、安心して検査・診療を受けるため、国の予算で大阪府遠隔手話通訳サービスを始めました。この遠隔手話通訳サービスのパンフレットを作成し、会員全員、各市町村へ配布しました。スマートフォン、タブレットを持っている、使いこなせることが限られているという課題がまだ残っています。また、この遠隔手話通訳サービスは、新型コロナウイルスに関する範囲で、対面通訳が基本と考えています。
- ・同じく国の予算で、ろうあ者のコミュニケーション方法、新型コロナウイルスに関連する手話言語の表現方法が入った「大阪府コロナ関連手話ハンドブック」の冊子を青年部の協力のもとで作成し、会員全員、各市町村へ配布しました。
- ・2021年3月から始まった新型コロナワクチン接種に対して、ろうあ者が不利にならないよう

要望書のひな形を作成し、府内市町村へ提出する運動を始めました。この運動は2021年度も継続していきます。

②大阪のろうあ者の拠点移転

昭和40年代にろうあ者が自由に手話を使ってコミュニケーションが出来るセンターを建設してほしい願いで運動した成果で、1977（昭和52）年4月20日に谷町六丁目駅の近くで大阪ろうあ会館がオープンしました。以来、44年間ろうあ者の福祉の拠点として、行事、役員会議を開催、ろうあ者の福祉を守る事業を展開するなど長い間、大阪のろうあ者を支えてきました。また、ろうあ運動の成果が出たのもこの拠点があったからです。そして、2011年（平成23）6月1日、大阪ろうあ会館の中に聴覚障害者情報提供施設が開設しました。

大阪のろうあ者にとってはなじみ深い大阪ろうあ会館でしたが、建物が古いこともあって耐震がきびしくなり、2020（令和2）年6月15日に森ノ宮駅近くに新しく開所した大阪府立福祉情報コミュニケーションセンターへ移転しました。

③国内法関連、大阪府行政との関わり

●全国手話言語市区長会

- ・2016年6月に設立された「全国手話言語市区長会」は、市町村の手話言語条例設立に向けて前進する一歩として、当会は府内全市町村の加入をめざしています。2020年度末での加盟した市町村は2019年度の報告から進展がなく計26市1町。詳細は一覧表にまとめています。

●2020年度手話言語条例制定市町（府内）

制定市名	条例名称	採択日	施行日
松原市	松原市手話言語条例	2020年9月24日	2020年9月29日
枚方市	手話でつむぐ住みよいまち 枚方市手話言語条例	2021年3月9日	2021年3月15日
河内長野市	河内長野市手話言語条例	2021年3月25日	2021年4月1日

●大阪府行政との関わり

- ・大阪府手話言語条例評価部会に当協会会長と副会長が出席。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響でオンライン会議を開き、乳幼児期手話言語獲得ネットワーク、大阪府こめっこプロジェクトについて報告がありました。
- ・当協会会長は、2つの部会「大阪府手話言語条例評価部会」「意思疎通支援部会」をまとめる「大阪府障害者施策推進協議会」、大阪府障害者差別解消条例による「大阪府障害者差別解消協議会」、第5次大阪府障がい者計画案を協議する「大阪府障害者自立支援協議会」、「大阪ふれあいキャンペーン実行委員会」、「大阪府障害者スポーツ協会」の各委員として担当。大阪府障害者差別解消協議会では、事業者による合理的配慮の提供が努力義務から法的義務になる大阪府障害者差別解消条例が2021年4月1日から一部改正されました。

④社会情勢に対する取り組み

- ・旧優生保護法被害に対する一時金支給が認定された件数が大阪府全体で見ると少ないことから、2月に大阪府へおおさか旧優生保護法を問うネットワークと当協会が入っている大阪障害フォーラム（ODF）と旧優生保護法被害大阪弁護団3つの団体連名で「旧優生保護法被害に対する調査・検証の実施、および「一時金支給法」の周知徹底と被害者の人権回復の実現を求める要望書および質問書」を提出しました。
- ・大阪市が出された大阪都構想制度案に対して、大阪市聴言障害者協会が大阪市長へ公開質問を出しました。当協会としては、大阪市だけの問題でなく大阪府全体の問題として取り上げ、緊急、10月19日に大阪市へ出した公開質問内容と大阪市聴言障害者協会が作成した緊急声明をろうあ大阪の号外として発行しました。

⑤施設建設運動

- ・4月に開所した泉州聴覚障害者センターに続き、他ブロックのセンター建設のため、6月、10月に実施予定だった街頭募金は新型コロナウイルス感染拡大で中止となりました。
- ・第17回さがの映像祭映像作品コンクールに泉州聴覚障害者センターなんなんの1日作業など様子を撮影した映像を応募しました。残念ながら受賞できませんでしたが、このセンターのことを広く知ってもらうことができました。

⑥会員など拡大、次世代育成、主催行事

○当会会員拡大

- ・正会員、賛助会員を合わせて2020年度総会員数は1,097名（内、正会員1,061名）となり、2019年度（総会員数1,224名、内、正会員数1,182名）より127名減少しました。賛助会員をのぞいた正会員はとうとう1,100名を下回った数字となり、近年約100名ずつ会員減少になっている状況が続いています。減少となった原因のひとつは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で近畿ろうあ者体育大会、全国ろうあ者体育大会が中止になったことで入会されないことが大きい。その影響で青年会員は2019年度と比較して半分以上も減少しています。今後の課題のひとつとして考えていきたい。また、この危機感を持って会員拡大に取り組む必要があります。2014年度（正会員1,423名）会員数と差が362名にもなり、単純計算で2014年度比15,000円×362名＝543万円の収入減です。これにより、当協会の2020年度決算は約50万円の赤字となりました。会員数だけでなく財政の部分も危機状態となっています。

【当会正会員数推移】

2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
1,423名	1,358名	1,342名	1,313名	1,294名	1,182名	1,097名

- ・社会福祉法人大阪聴覚障害者福祉会・後援会の個人会員数は1,005名（ろうあ者303名）、団体会員数は133団体、総会員数が1,138となりました。2019年度と比較すると、個ろうあ者の個人会員数が31名増え、会員拡大することができました。

参考：2019年度総会員数1,101（個人会員970名の内ろうあ者272名、団体会員131団体）

- ・社会福祉法人全国手話研修センター後援会は、会員拡大の取り組みが弱く、大阪の会員数は269名（内ろうあ者189名）となり、2019年度（292名）と比較すると23名減少となりました。目標の大阪750名（全国10,000名）からはまだ遠く、引き続き後援会の支援と会員拡大につとめます。
- ・日本聴力障害新聞購読者数は目標1588部に対し838部（達成率52.7%）にとどまり全国19位、季刊MIMI購読者数は目標794部に対し102名（達成率12.8%）で全国44位と順位を下げています。刊行物の存在意義への理解を求めて、研修センター後援会とセットで普及する必要があります。

○次世代育成、主催行事関連

- ・全日本ろうあ連盟創立70周年記念として制作した映画「咲む」上映の活動のため、2019年12月に大阪「咲む」上映推進委員会を発足しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2020年10月3日に役員が映画内容を把握して宣伝できるように役員向けの上映会を開きました。府内で6ヶ所の上映会を開き、合計1152名が観賞しました。上映会開催だけでなく、活動としてA5ファイル1050枚、付箋950個、Tシャツ100枚のグッズも販売しました。また、咲むと不二家コラボミルクキーは会員全員に発送しました。

日 時	主催名	会場	観賞者数(名)	募金額(円)
2020年10月3日	大聴協	鶴見区民センター	82	
2020年11月3日	箕面市	箕面市メイプルホール	304	
2020年12月6日	羽曳野市	羽曳野市市民会館	①85、②51	
2021年1月31日	泉州	アプラたかいし	①109、②100	
2021年2月20日	大阪市	鶴見区民センター	①64、②67	
2021年3月20日	京阪	守口市立図書館	①66、②70	27,431
2021年3月27日	大阪市	東成区民センター	①87、②67	39,100

- ・11月29日（日）、1泊2日の計画だった幹部研修会は新型コロナウイルス感染拡大の影響で1日のみ開催しました。午前は「活動の必要性和会員減少の危機感」のテーマで清田理事会相談役が講演していただき、午後から3つの分散会に分けて3つのテーマ「①コロナ禍における会員への対策、②会員数を増やすためにできることは、③会員に引き続き入会してもらえるためには？」で討議しました。いろいろな意見が出された中に、参加された青年部からも意見を出され、次世代を担う人の活躍ぶりがみられました。
- ・3月7日（日）、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止になった三重大行事のうち、みみの日記念大会の代わりに自宅でYouTubeLiveを視聴する初のオンライン行事、目で聴くテレビ手話キヤスター3人によるトークショー「大阪ろうあオンライン大喜劇」を開催しました。約160の

アクセスがありました。オンラインはまだ浸透されておらず、今後の課題です。

⑦全国手話検定試験

- ・社会福祉法人全国手話研修センター主催の第15回全国手話検定試験は、例年は10月開催ですが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で2月23日（準1・1級）、27日（4・5級）、28日（2・3級）に実施しました。申込者数は5級140名（2019年度185名）、4級150名（2019年度221名）、3級178名（2019年度357名）、2級102名（2019年度174名）、準1級47名（2019年度65名）、1級29名（2019年度62名）で総勢646名（2019年度1,064名）と新型コロナウイルス感染拡大の影響もあって418名も減少しました。ほかに9月30日（4・5級）、11月10日（5級）、団体としての試験があり、計104名の申込者がありました。また、初のインターネット（ZOOM）試験も3月7日（3級）、30日（準1級・1級）に実施し、計146名の申込者がありました。初めてのこともあって見つけたたくさんの課題を主催側に提出しました。

⑧大阪ろうあ会館の事業

- ・大阪府登録通訳者試験受験者数は一次272名、二次159名が受験し、結果新規に7名が合格、2021年度登録者数は237名（2020年度247名）となりました。手話通訳技能検定試験（手話通訳士試験）は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止されました。大阪での累計は347名が居ます。

⑨主管事業、交渉、防災への取り組みなど

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により全日本ろうあ連盟主催の行事がすべて中止になりましたが、10月24日に4会場（大阪は京都会場）でオンラインによる第8回（通算第71回）評議員会を開催され、大阪から11名の評議員が出席しました。
- ・近畿ろうあ連盟主催の近畿地区評議員会が1月24日に府県ごとのオンライン（ZOOM）で開催されました。大阪から11名の評議員が出席し、大阪から35件の提案、11件の質問を提出しました。提出した提案数・質問数は今までにない件数でした。
- ・大阪府交渉は府内の障害者団体とともに取り組み、当協会と大阪聴覚障害者福祉会からの要望への回答は10月30日、11月12日と2日間取り上げられました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で一部が現場へ、そのあとはオンライン（ZOOM）を使っての視聴となりました。ろう学校（聴覚支援学校）の教育環境の拡充、聴覚障害者等ワークライフ支援事業の予算増額と国の事業化、国への介護保険優先原則の廃止および加算見直しの働きかけと助成、2025年の大阪万博において、障害者権利条約の第9条「アクセシビリティ」を保障するなどの要望を出しましたが、よい回答がなかなかありませんでした。
- ・当協会、大通研、大サ連、各施設が構成する大阪聴覚障害者防災ネットワーク委員会は、全体会を2月9日に気象庁担当者を講師として招いて講演する予定でしたが、新型コロナウイルス感染

拡大の影響で中止になりました。年2回の事務局会議を開催、情報提供施設の防災の手話動画の作成に協力しました。

- ・当協会役員、前役員5名が栄誉になるそれぞれの受賞をいたしました。

樋口 武則氏 (2020年度全日本ろうあ連盟 厚生文化賞)

西滝 憲彦氏 (令和2年度秋の叙勲 旭日双光章)

廣田 しづえ副会長 (令和2年度全国社会福祉協議会会長表彰)

大竹 浩司会長 (厚生労働大臣賞)

岡本 昇治氏 (令和2年度大阪府障がい者週間知事表彰)

各受賞者からのコメントはろうあ大阪に掲載しました。

他に会員の木戸章恵氏が6月20日の誕生日で100歳になられました。全国の高齢番付が2位になっています。